

“ノーテレビデーに取り組んで”



久野小学校
伊藤紀子校長

久野小学校に赴任した際、子どもたちの外で遊ぶ姿や自然との触れ合いが少ないと感じていました。

今年2月に、PTA活動の一環で清川輝基さんを講師に招き講演会を開いたのが「ノーテレビデー」との出会いでした。

この「ノーテレビデー」の活動は、久野地域での、子どもたちの豊かな成長のバックグラウンドにつながると感じました。

「テレビやゲームは絶対いけないと決めつけるのではなく、子どもの居場所づくり事業とも連携して、五感を使った活動や遊びを増やし、テレビなど電子メディアとの良い関係を築いてもらえたら」と実施しました。

はじめての試みということもあり「情報

化時代の中、ノーテレビデーが子どもたちに浸透できるのか」、「各家庭で抵抗なく受け入れられるのか」、「夏休み中でも、実施できるのか」など不安な面もありました。

しかし、PTAや地域のみなさんのご理解とご協力もあり、ノーテレビデーの活動をスムーズに実施することができました。

また、アンケート結果からも分かるように、この取組を通じ、家族のコミュニケーションの場が増え、生活の中でテレビやパソコンなど電子メディアとの接触が長すぎたと感じ、意識されるようになった家庭も増えたと思います。

今後も一方的なお願いでなく、地域や家庭と連携して、ノーテレビデー活動を継続していきたいと考えています。

このノーテレビデーの取組みが、久野地域ばかりでなく、雲南市全域に広がっていけば、心豊かな子どもたちの教育にもつながると思います。

【アンケート結果より】

テレビ以外に関心を向けるようになり、外で遊ぶ時間が増えたほか、親子でスポーツに取り組むようになった。

はじめは、子どもたちより、親が耐えられない時もあり、生活習慣を見直す良い機会となった。

子どもたちが、以前より手伝いをするようになった。これからは続けたい。

子どもとの会話や食事時の会話がなくなり、顔を合わせて話すようになった。

ノーテレビでもない日に率先してテレビを消すようになった。

最初は家庭内で反対の声もあったが、その声も徐々になくなった。

家族で物事に協力して取り組むようになった。

時間に余裕ができ、気持ちにもゆとりができた。

家族が早く寝るようになり、目覚めも良くなった。



また、市では、今年度市内幼稚園園児・小学校児童・中学校生徒を対象とした生活実態調査を実施し、その結果を踏まえて、子どもの居場所づくり事業なども盛り込んだ各種取り組みを図っていく予定です。



ノーテレビデーの取組み

テレビのスイッチOFFにして
家族と地域のふれあいONにしよう

ノーテレビデーとは

最近の子どもたちは、テレビやビデオ、ゲームなどの視覚メディアを利用する時間が多くなり、屋外での遊びや読書をする時間が減っています。これらのメディアは情報を得るための大切な情報源の一つですが、過剰に見すぎると、発育段階の子どもたちの脳に悪影響を及ぼすとされており、それを指摘する専門家も多くなりました。そこで、子どもたちの生活習慣改善の一環として、「1日の内一定時間や1週間の内1日など、テレビを見ない時間・日を決め、テレビとのつき合い方を考えてみよう」と言うのが、ノーテレビデーです。



ノーテレビデーの 取組み

久野小学校の場合



大東町の久野小学校では、小学校のPTAや地元公民館・振興会、らくちんクラブ（子どもの居場所づくり事業）など、地域が一体となり、今年4月から8月にかけて「ノーテレビデー」に取り組んできました。具体的には、その月の最初の1週間を「ノーテレビデー」チャレンジ週間と位置付け、それぞれの家庭で、テレビのない時間・日を設定し、テレビ・ゲーム接触アンケートに記録していくというものです。また、手づくりののぼり旗を作成し、期間中は、学校昇降口などへ掲揚したり、標語を募集し、看板を作成したりして、このチャレンジ実行への意識高揚も行いました。ここで重要なことは、この活動に、地域ぐるみで取り組まれたということです。このことは、学校生活での友だちとの会話や地域の同一な話題づくりにもつながりました。